



当日のアジ仕掛け

●Tackle Guide
仕掛けは2本バリと3本バリがあるが、技量に合わせて選択。竿は7:3~8:2調子で全長1.5~2メートルのゲームロッドが扱いやすい。硬い竿や短い竿を使う場合はクッションゴムを装着すると口切れ防止になる。



▲逸見さん親子も順調に釣る

もアジを釣り上げてニッコリと写真に収まってくれた。埴君も「今度はダブルだぜ」と得意顔を見れば「右舷のトモで良型が上がったよ」と船長が知らせてくれたので駆け付けると河本富香さんが28センチの丸まるとしたアジを釣り上げていた。

ここでエンジン全開となったのは右舷ミヨシの野口さんとその隣の杉浦さん。野口さんは広島屋の先代のころから通い詰める常連さん。杉浦さんは広島屋の関係者で、「親戚が遊びに来ているので

アジをお土産に持たせる約束をしたから」と競うようにアジを釣り続けている。そんな中で苦戦気味だったのが6人グループで左舷トモにいた宮下さんだ。宮下さんのコマセの振り方を見ると力一杯強く大きく竿をおおっている。コマセでアジを寄せるのではなくピシでアジを散らせているような感じがしたのでアドバイスをさせていた。



▲東京湾のライトアジはこの冬も鉄板

健康診断で中性脂肪と悪玉コレステロールの数値が高いとイエローカードを出されてしまった。体質改善を図るには青魚を食べてDHAやEPAを摂取するのが一番。そこで、うってつけの方法としてアジ釣りに行くことを思い立ち1月28日に東京湾奥横浜の広島屋へ釣友と出かけてきた。

東京湾のアジは周年狙えるターゲットだが、今の季節は

トップシーズンとは言えない。しかし広島屋のアジの釣果は連日トップで東(100尾)超えと絶好調。鈴木船長に話を聞くとポイントにしている本牧沖は一年を通してアジ釣りをしているのでコマセ効果でアジが居着いているらしい。いわば天然のイケス状態なのだろう。しかもコマセを食べ続けているのでこの時期でも脂の乗りは申し分ないとのことだ。

東京湾の鉄板ターゲット!!

三拍子そろったライトアジ

●東京湾奥横浜発! 本牧沖

本誌ABC(東京) 鈴木良和 Yoshikazu Suzuki

順調に釣れ始める

当日は6名グループを含んだ12名での出船となり、本牧沖には15分程度で到着。操舵室の魚探を覗き込むとすでに海底付近に魚の反応が盛り上がるように赤く映し出されていた。

「準備のできている人から始めてください。水深は22メートル、タナは海底より2~3メートルの範囲です」と開始の合図が出る。

余分な糸フケが出ないように親指でスプールを軽く押さえながら仕掛けを落とし込み、着底後に2~3度底タチを確認する。

海底から1メートル巻き上げた地点で最初のコマセまき。穂先を海面から水平までピッとシャープに振り上げてコマセを出す。

一呼吸置いたらリールを50

すると「きた、きた」とアジを連釣させて追撃開始だ。

巨大イシモチが浮上

「ようやく釣れたよ」とイシモチを釣り上げてうれしそうにしているのは埴君。聞くと家族がイシモチ好きなのでアジをある程度釣ったところでタナを下げ、イシモチに焦点を絞っていたらしい。

ちなみに広島屋は付けエサにアカタンではなくアオイソメを提供していたので、一番先のハリに若干長めのアオイソメを付けていたそうだ。

開始から3時間が過ぎたところで、私も晩のおかずを確保するために竿を出す。この時点で食いタナは底から2メートル。釣れるアジのサイズは18~22センチほどだった。

底上1メートルからコマセ



▼アタリが遠くなったらタナを調整してみたい

「準備のできている人から始めてください。水深は22メートル、タナは海底より2~3メートルの範囲です」と開始の合図が出る。

余分な糸フケが出ないように親指でスプールを軽く押さえながら仕掛けを落とし込み、着底後に2~3度底タチを確認する。

海底から1メートル巻き上げた地点で最初のコマセまき。穂先を海面から水平までピッとシャープに振り上げてコマセを出す。

一呼吸置いたらリールを50

船宿information

東京湾奥横浜

広島屋

☎045-622-8615 (詳細は巻末の情報欄参照)

▶料金=ライトアジ乗合一人9000円。コマセ、付けエサ付き。水別売 250円
▶備考=出船7時、沖場が13時半。ほかシロギスへも出船。無料駐車場あり



鈴木 祐司船長

おそろくサバが掛かったと思いきやオマツリしても困るので急いで巻き上げるとボコッと海面を割ったのは40センチもあるイシモチ。

これは埴君にプレゼントしたのだが12時ごろになって潮が緩んでくると2メートルのタナではイシモチが頻繁に掛かるようになる。

そんな状況でもコンスタントにアジを釣り続けていた野口さんにタナを聞くと、「潮が緩くなったので底上3メートルでやっていますよ」と教えて



▲交じるイシモチは良型ぞろい

をまきながら誘い上げ、2メートルでコマセを振った瞬間にコッコツとアジ特有の奥ゆかしい魚信が到来。

口切れしやすい魚だけに静かにリールを巻きながら抵抗を取り込む。

次の投入ではダブル、その次は1尾と空振りなしで釣り続けていると誘い上げのときにギューンと激しく竿が絞り込まれる。

おそろくサバが掛かったと思いきやオマツリしても困るので急いで巻き上げるとボコッと海面を割ったのは40センチもあるイシモチ。

これは埴君にプレゼントしたのだが12時ごろになって潮が緩んでくると2メートルのタナではイシモチが頻繁に掛かるようになる。

「俺もサバみたいよ」と言いながら釣友の埴君が抜き上げたのはサバではなく良型のコノシロで少々困惑顔。

サバの群れが通り過ぎるとアジがヒットし始める。6人グループの逸見さんは息子の

要はコマセの帯を作ったその中に仕掛けが張った状態をキープするのが重要だ。

最初に船内で釣れ始めたのはアジではなく30センチほどのマサバ。だがブツクリとして脂が乗って実にうまさそうなマサバだったので皆さん大事にキープ。

「俺もサバみたいよ」と言いながら釣友の埴君が抜き上げたのはサバではなく良型のコノシロで少々困惑顔。

サバの群れが通り過ぎるとアジがヒットし始める。6人グループの逸見さんは息子の



▲ライトアジは引き味も楽しい

知得! 手間を惜しまず下処理を

「釣りアジ入荷しました」と行きつけの寿司屋の入口に貼り紙されているときがある。釣り魚が別格扱いされるのは、1尾ずついいいに下処理されているからだ。

しかし、魚がたくさん釣れて釣りに夢中になっているとそんな扱いをしがちだ。魚にストレスを与え、窒息死させてしまったら釣り魚の意味がない。魚が釣れたらすぐに血抜きをして海水水を張ったクーラーに入れよう。

帰宅したら内臓を取って下処理することも忘れなく。おいしい魚を食べるためには手間を惜しまないことも大切です。

▲せつかく釣ったアジはおいしくいただきたい

●すずき よしかず/減ったのは身長と視力。増えたのは体重と腹囲と中性脂肪と健康診断で判明しました。分かってはいましたがへこみますねえ。